イベント補助金

○　イベント補助金の対象事業

- すみだまつり・こどもまつり補助金事業【文化振興課】
- 「イチから始める」運動（「イチ」実施委員会補助金）【産業経済課】
- フォーラム・イン・すみだ開催経費に係る補助金【すみだ中小企業センター】

すみだまつり・こどもまつり補助金事業【事業概要】

1　補助金事業開始の目的（理由）

補助金を交付することにより、区民エネルギーの集約された全区民的まつりを通じ、区と民間との協働による「ふるさと墨田」のまちづくり意識の高揚と地域の振興を図る。

2　これまでの経緯（開始年度、根拠法令の改正、対象者・補助金額の見直し状況等）

（1）すみだまつり

第 1 回（昭和 51 年）は、「環境をよくする運動」の一環として実施された「環境まつり」であり、その後、各種団体が参画し「区民まつり」と名称変更された。第 5 回（昭和 55 年）からは、更なる地域の連帯と区民相互の交歓の輪を広げるために「すみだまつり」と改称、以来「すみだまつり実行委員会」・「墨田区」及び「墨田区文化観光協会(現 一般社団法人墨田区観光協会)」の共催で、毎年 10 月初旬の土・日曜日(2 日間)に実施している。なお、第 7 回（昭和 57 年）からは、広告プログラムの発行等の企業協賛を導入している。

（2）こどもまつり

当初は「交通安全こどもの日のつどい」の名称で、第 1 回（昭和 46 年)は、隅田公園周辺を会場として実施された。第 7 回（昭和 52 年）からは、こどもたちの安全と健康で明るい成長を願うとともに友情の連帯の輪を広げることを目的として、「こどもまつり」と改称され、毎年ゴールデンウィーク期間に実施してきた。その後、更なる効率的な運営と相乗効果を図るため、平成 13 年（第 31 回）からは「すみだまつり」と同時開催となり、現在に至っている。

（3）補助金

開催条件や記念事業の実施等の状況を踏まえて、毎年、予算額の見直しを行っており、平成 22 年度には新墨田区総合体育館及び整備中の錦糸公園での実施となったことから、養生費やメンテナンス経費等が増額された。その後、錦糸公園整備の進捗等に合わせた経費の見直しを行い、平成 24 年度及び平成 25 年度は減額となった。平成 27 年度は、「すみだまつり」は第 40 回、「こどもまつり」は第 45 回の節目を迎えることから、記念事業の実施経費等として増額されている。

3　補助金の概要

（1）根拠法令・補助対象者

すみだまつり実行委員会補助金交付要綱（昭和 58 年 6 月制定）・すみだまつり実行委員会

（2）補助金の算定基準

① 出演料及び謝礼金、② 会場設営費、③ 使用料、④ 会議費、⑤ 印刷宣伝費、⑥ 区長が必要と認める事業の経費、の一部を予算の範囲内において補助

（3）予算の推移（5 年間分）

「単位：千円」

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
歳出当初予算額	24,500	23,500	21,500	21,500	24,500
歳 出 決 算 額	24,500	23,500	21,500	21,500	

4　他区の実施状況・類似補助金の有無

「区民まつり」は 23 区中 20 区（内実行委員会あり：14 区）で実施［平成 23 年度調査］

5　これまでの実績・成果

（1）実績（活動指標）

「（　）は目標値 単位：万人」

活動指標名	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
来場者数	29	27	29	19	（30）

※平成 26 年度は、日曜日が荒天のため、屋外の催し物の多くが中止された。

（2）成果・効果（成果指標）

「（　）は目標値　単位：人」

成果指標名	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
参加者･参加団体及びスタッフ（実行委員･運営ボランティア等）	1,124	1,112	1,187	438	(1,200)

※平成 26 年度は、日曜日が荒天のため、屋外の催し物の多くが中止された。

6　課題

（1）企業協賛が漸減傾向にある。

（2）実行委員の高齢化が進んでいる。

（3）模擬店、ＰＲコーナー、芸能大会への出展・出演希望が増加している。

（限られたスペース・時間内で実施するための更なる工夫と調整が必要）

すみだまつり・こどもまつり補助金事業【区民行政評価結果】

委員会総合評価	委員会総合評価理由
C 補助による一定の効果があり、継続する必要があると認められる。	「まつり」の必要性はあるが、「まつり」に対する住民の考え方は様々であり、開催目的や意義を改めて明確にする必要がある。そのうえで運営方法の見直しや、寄付金・協賛金など自主財源の確保により、補助金の縮減に努められたい。

個人評価内訳				
A	B	C	D	E
0	2	4	1	0

個人評価内訳				
	必要性	公益性	効率性	適格性
○	4	4	0	1
△	3	3	5	6
×	0	0	2	0

■評価Ｂとした委員の意見

○今後の方向性として、観光も大事だが、多くの高齢者や障害者が参加できる「まつり」へより発展して欲しい。

○様々なイベントを集約して祭りの受け皿とすることはできないか。また、会場を年によって変えるなど地域的公平性を担保するために検討が必要だと思う。祭りに対して、必要性は感じるが、住民の考え方は様々なので、区民がこの程度の支出は仕方がないと考えていただける事が必要である。今後も区民の方と議論をしながら、祭りに対して支持を得られるように見直しを行っていくことが必要だと思う。

■評価Ｃとした委員の意見

○まつりの開催目的・意義付けを今一度見直して欲しい。区が補助金を出して関与していくべきなのか考えて欲しい。基本的には、区補助金の縮減の方向性があるべきと考えられることから、自主財源獲得にむけて改善して欲しい。

○20 万～30 万人の来場者がある中、参加動機や来場者の評価等を分析するためアンケートをとるべきだと思う。また、外国人在住者を活用して海外への発信等を検討してみてはどうか。

○区民はもとより来街者の増加も視野に入れるということなので、区民の税金を補助金として使用することが適格なのか疑問が残る。今後の祭りの目的を明確にしないと、補助金が適当なのか判断が難しい。

○目的の「ふるさと墨田」のまちづくり意識の高揚という点を踏まえれば、例えば、こどもまつりにおける企画段階から子どもを参加させるなど、実行委員会の組織のあり方や運営方法の大幅な見直しを期待する。また、収入に対して、会場設営費の割合が高いので、工夫を求めたい。

■評価Ｄとした委員の意見

○行政主導の祭りが良いのか、墨田区が活性化するためにも、もう一度、コンセプトやミッションに基づき、収支、例えば、寄付金と協賛金とのバランスや目的、そしてその範囲を見直すべきである。

「イチから始める」運動(「イチ」実施委員会補助金)【事業概要】

1　補助金事業開始の目的（理由）

墨田区の産物を販売する市を開催する際に、その経費を補助することにより、多くの人が来訪する「交流の場」の形成と地域の活性化を促し、もって墨田区の産業及び商業の振興に寄与することを目的とする。

2　これまでの経緯（開始年度、根拠法令の改正、対象者・補助金額の見直し状況等）

「イチから始める」運動は、工房文化都市に向けた取組として平成 2 年の産業振興会議で提案された。「生産の場」創りである 3M運動に続く、生産物を売り買いする「交流の場」創りとして位置づけられる。実施検討の段階で各団体に呼びかけを行い、実施体制等の条件が整っていたガラス業界により同業市が開催されることとなった。

平成 3 年度開始　　推進検討委員会の開催（10 回）
平成 4 年度　　「ガラス」同業市の開催（H4．9 月～／毎月 15 日開催）
平成 8 年度　　開催日の変更（4・6・8・10 月の第 1 土・日に変更）
平成 11 年度　　開催日の変更（4・10 月の第 1 土・日に変更）
平成 17 年度　　開催日の変更（4 月開催は第 3 土・日に変更）
平成 19 年度　　補助限度額の変更（90 万円→150 万円）（※）

※業界による自主的な取組を促す観点から、イチの運営は実施委員会が担い、区は場所の提供を行ってきた。平成 19 年度までは、会場の設営委託は区が直接行っていたが、平成 20 年度から実施委員会が行うこととなり、それに伴い、委託料相当（150 万円）を補助金として交付することとなった。

3　補助金の概要

（1）根拠法令
「イチ」実施委員会補助金交付要綱（平成 4 年度制定）
「イチから始める」運動委員会設置要綱（平成 4 年度制定）

（2）補助対象者
「イチ」実施委員会

（3）補助金の算定基準
市の開催に要した経費のうち区長が適当と認める経費
（会場設営費、広告費、その他イチの実施に係る経費）

（4）予算の推移（5 年間分）

「千円」

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
歳出当初予算額	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
歳出決算額	1,500	1,500	1,500	1,500	

4　これまでの実績・成果

（1）実績（活動指標）

「()は目標値」

活動指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
市開催回数(回)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)	― (2)

（2）成果・効果（成果指標）

成果指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
市来場者数(人)	11,000	16,000	12,000	14,000	―

○ガラス同業市については、一過性のイベントとしてではなく、毎年決まった場所・時期に実施することにより、着実に定着が図られてきている。近年は、地方からの来場者やリピーターも多く、区の地場産業をＰＲする場として効果が高い。

○来場者数は年々増加傾向にあり、特に東京スカイツリー開業後の増加が目立つ。「ものづくりのまち　すみだ」の魅力を伝える観光資源としても重要性は高い。また、実施委員会による自主的な事業であるため、集客事業として見た場合に費用対効果が高いものとなっている。

○開始当初、ガラス同業市の参加者の多くは「製造業者」としての特徴が色濃かったが、イチの開催を通じ消費者と直接交流してきたことにより、消費者向けの付加価値の高い新製品づくり、それに必要な技術力、デザイン力の向上にもつながってきた。

6　課題

「イチ」の実施にあたっては、継続的かつ自主的な取組であることが必要であるため、相応の実施体制が求められる。その結果、現状では担い手がガラス同業市のみとなっており、広がりが限定的となっている。

「イチから始める」運動(「イチ」実施委員会補助金)【区民行政評価結果】

委員会総合評価	委員会総合評価理由
D 補助の継続は必要であるが、効果が高くないため、見直しが必要である。	補助対象が一つの業界のみであり、この補助金による事業の売上が上がっている現状では、補助金を投入する必要があるのか疑問がある。参加基準や実施方法を工夫して、多様な事業展開と自立した運営に向けた見直しが必要である。

個人評価内訳				
A	B	C	D	E
0	0	0	5	2

個人評価内訳				
	必要性	公益性	効率性	適格性
○	0	0	0	0
△	6	3	4	2
×	1	4	3	5

■評価Ｄとした委員の意見

○売上が 2800 万円あるということだが、純利益 10%と想定しても 280 万円はある。この金額を考えると、補助金（150 万円）は不要なのではないか。また、売上の中から寄付をしているということであるが、そのような支出をするのであれば、まず補助金を削減すべきである。

○この取り組みをどのような方向で進めていきたいのかが不明確であり、自立のために何をしているのかもよく分からない。抽選会の支出も不明瞭である。

○費用対効果が高い事業ということだが、その効果が説明では理解できなかった。目標がなく、今後の補助金のあり方が曖昧で、自立を促すなど、将来像をもっと確立すべきではないか。また、利益がある程度上がっている団体である以上、区民の税金を投入することが、補助金として適正なのか疑問が残る。

○ガラス業界以外で「イチからはじめる」運動を展開できるかどうかに着目している。他の業界団体が行う可能性があるのであれば、この補助を続けていくことも理解できるが、ガラス業界だけのための補助になってしまうのであれば事業目的は既に達成していると思う。補助金の終了年限や業界自立のためのプロセス・ビジョンを計画的に政策のなかで見直すべきだと思う。

○支出内容を大幅に見直すべきだと思う。会場費・抽選費は必要なのか疑問が残る。広告費やDM費も多いのではないか。細部を見直すことにより、支出の減額が図れると思う。利益の上がる団体に対して補助金を支払う意味が薄い。減額や支出額ゼロを目指すべきである。

■評価Eとした委員の意見

○ガラス市の開催による、すみだブランドの認知度の向上・拡大については、効果は認められていると思う。すでに補助の目的は達成されており、継続的に補助金支援を行っていく意義はかなり低下していると考えられる。今後は、ガラス業界が自立的にイチを運営していけるように、補助金廃止に向けた具体的な検討をすべき。

○実施方法については工夫が必要と考える。テントについての論議もあったが、本当にその助成が必要なのか、の説明がわかりづらかった。営業行為を行っているので、自分で購入すべきなのではないかという考え方もできる。また、一定の売上があるので、第三者委員会などを設置し、チェックする体制も必要ではないか。行政内部だけの評価ではなく、公平、公明、公正の仕組みで業界が発展するためにも、区民の第三者を巻き込んでいく必要があると考える。

フォーラム・イン・すみだ開催経費に係る補助金【事業概要】

1　補助金事業開始の目的（理由）

墨田区内外の企業グループにおける幅広い交流を促進し、活発な情報交換や意見交換を通して、グループにおける活動をより活発にする。また、各企業の将来の事業に役立つ人脈（ネットワーク）を拡大し、墨田区の地域産業の活性化とイメージアップを図る。

2　これまでの経緯（開始年度、根拠法令の改正、対象者・補助金額の見直し状況等）

（1）開始年度

平成 5 年度（平成 25 年度で 21 回実施）

（2）補助金額の見直し

平成 22 年度から、定額補助（300 万円）を実施経費相当の金額とした。

3　補助金の概要

（1）根拠法令等

墨田区中小企業振興基本条例に基づき、毎年、実施決定を行った上で支出している。

（2）補助対象者

フォーラム・イン・すみだ実行委員会

（3）補助金の算定基準

前回の実施内容及び経費

（4）予算の推移（5 年間分）

「千円」

	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
歳出当初予算額	2，500	2，400	2，280	内容を充実させるべく開催見送り	2，280
歳出決算額	2，450	2，103	2，096		

4　他区の実施状況・類似補助金の有無

ものづくりフェア実施経費（ものづくりフェア実行委員会への補助金）

5　これまでの実績・成果

（1）実績（活動指標）　　「(　)は目標値」

活動指標	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
実行委員会開催回数	11	11	11	内容を充実させるべく開催見送り	(12)

（2）成果・効果（成果指標）　　「(　)は目標値」

成果指標	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
参加社数	106	76	67	内容を充実させるべく開催見送り	(100)
参加人数	125	87	74		(150)

6　課題

参加者が減少傾向であることから、当事業に対し、より多くの企業の関心が高まり、参加者の増加が期待できるような内容にするなどの取組みが必要である。

フォーラム・イン・すみだ開催経費に係る補助金【区民行政評価結果】

委員会総合評価	委員会総合評価理由
E 補助の効果は高くなく、手段の見直しを図っても、効果拡大までは期待できない。	一年間休止し継続という意思決定をしたが、それによる効果が具体的に見えなかった。また、イベントの目的が講演会なのか交流会なのか不明確だ。予算に占める補助金の割合が高く、受益者負担が少ない状況は問題であり、根本的な見直しが必要である。

個人評価内訳				
A	B	C	D	E
0	0	0	3	4

個人評価内訳				
	必要性	公益性	効率性	適格性
○	1	0	0	0
△	2	3	2	3
×	4	4	5	4

■評価Ｄとした委員の意見

○本事業の必要性は感じるが、額の見直しは必要だと思う。平成 26 年度に休止し、平成 27 年度内容を見直し実施するとのことだが、その結果を見てこの補助金をどうするかを判断すべきではないか。

○一年休止したが、どのようなことを検討したのかが不明確だ。今後どのように運営するかを明確にすべきだ。近隣の区との共催による経費節減、先端的なイベント等を専門企業と企画することも考えられるのではないか。

○フォーラム・イン・すみだを開催することによって、区民全体にもたらされる利益が不透明であり、新規ビジネスが生まれているという結果を把握していなかったので補助金の性格と合っているか疑問である。補助金を出す以上、結果として新規ビジネスや区民に還元できる結果・目標が必要だと思う。今後、継続するのであれば目標設定などの見直しも必要ではないか。

■評価 E とした委員の意見

○補助金の交付の当初の目的は達成されていると思う。平成 26 年度は休止し、平成 27 年度に継続という意思決定をしたが、それによる効果を具体的に見込んでいないところに問題を感じる。インターネット等が普及している現在において、引き続きこの形態で実施していくことが良いのか疑問が残る。支出経費もムダが多い印象を受けた。

○実際に 4 回ほど参加したが、知人ができるなどの効果はあったが、それが継続するような仕組みが考えられていなかった。実施の仕組みが開始当初からのままで継続されてきたからではないかと思う。グローバル化・グローカル化しているなかで、大幅に見直すべきではないか。しかし、大きな広告代理店などの企業に委託するのではなく、区民の中で地域人材を育成しながらイベントを作り上げていくべきだと思う。

○墨田区が中小企業を大切な区民として捉え、支援していく施策は素晴らしいと思う。しかし、この事業の内容は「トレンドを知るための講演会」や「ネットワークづくりのための交流会・分科会」ということなので、これらは企業が自助努力すべき内容ではないか。

○補助金の負担割合が約 90%ということは、健全な運営とは言えず見直すべきである。補助金としての正当性を確保するのであれば、3 割～5 割程度の自己負担はあってしかるべきだと思う。この事業による受益者が全く負担なく、区民の税金によって負担されているという構造は改めるべきである。このイベントの目的が、フォーラムなのか、講演会なのか、交流会なのか、見本市なのか不明確なため、参加者の減少を招いているのではないか。大幅に見直すべきである。